



F-7988

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Applicant : Kiyoshi YASUDA
Serial No. : 10/689,353
Filed : October 20, 2003
For : TONGUE DEPRESSOR
Group Art Unit : UNKNOWN
Examiner : UNKNOWN

Certificate of Mailing Under 37 CFR 1.8

I hereby certify that this correspondence is being deposited with the United States Postal Service as first class mail in an envelope addressed to Commissioner for Patents, P.O. Box 1450, Alexandria, VA 22313-1450 on January 12, 2004.

Frank J. Jordan 01/12/04
(Name) (Signature and Date)

Commissioner for Patents
P.O. Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

LETTER FORWARDING CERTIFIED PRIORITY DOCUMENT

Sir:


The above-identified application was filed claiming a right of priority based on applicant's corresponding foreign application as follows:

<u>Country</u>	<u>No.</u>	<u>Filing Date</u>
Japan	2003-137970	April 9, 2003

A certified copy of said document is annexed hereto and it is respectfully requested that this document be filed in respect to the claim of priority. The priority of the above-identified patent application is claimed under 35 U.S.C. § 119.

Respectfully submitted,

Jordan and Hamburg LLP

By 
Frank J. Jordan
Reg. No. 20,456
Attorney for Applicants

Jordan and Hamburg LLP
122 East 42nd Street
New York, New York 10168
(212) 986-2340

FJJ/cj
Enclosure: Certified Priority Document

Jordan and Hamburg
UP

(212)986-2340

Kiyoshi YASUDA

101689.353

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 3 年 4 月 9 日
Date of Application:

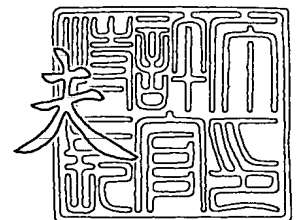
出 願 番 号 特 願 2 0 0 3 - 1 3 7 9 7 0
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 3 - 1 3 7 9 7 0]

出 願 人 安 田 清
Applicant(s):

2 0 0 3 年 1 1 月 1 3 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康



出証番号 出証特 2 0 0 3 - 3 0 9 3 8 0 9

【書類名】 特許願

【整理番号】 200349

【提出日】 平成15年 4月 9日

【あて先】 特許庁長官殿

【発明の名称】 舌圧子

【請求項の数】 2

【発明者】

【住所又は居所】 千葉県市原市辰巳台東2丁目9番地辰巳台東県営住宅3
棟406号室

【氏名】 安田 清

【特許出願人】

【識別番号】 392001690

【氏名又は名称】 安田 清

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【書類名】 明細書

【発明の名称】 舌圧子

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 照明機能を持つ舌圧子において、本体の長手方向に孔を設けたことを特徴とする舌圧子

【請求項 2】 本体に設けた孔を本体前部で閉じ、本体を光透過性にしたことを特徴とする特許請求の範囲第 1 項記載の舌圧子

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、口腔内の舌、歯牙、咽頭などを視診する際、あるいはそれらを清拭する際、口腔内を照明しつつ、舌などを押さえる舌圧子に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 口腔内は暗い。そのため、口腔内の疾患や歯科的視診の際には、口腔内を照明する必要がある。従来は反射鏡を頭部に装着し、光をそこに集めて反射させ口腔内を照明したりしていた。

一方、咽頭部や奥舌部を見るためには、薄いへら状の舌圧子で、舌を下方に押し下げる必要がある。歯や歯茎の外側を視診する際にも、舌圧子で頬を内側から外側へ圧したり、口唇をめくりあげたりする必要もある。これらの際にも照明が必要であるが、照明と舌圧子は従来、それぞれ別個の物であった。そこで、照明機能をもった舌圧子が考案されている（例えば、実公昭 62-28963 号や実公平 6-68719 号）。

しかしながら、これらの舌圧子は、電源および光源を具備するホルダーに、舌圧子を挿脱する構成になっている。そのため、ホルダーと舌圧子のそれぞれに製作費がかかり、形態も複雑である。さらに舌圧子先端部とホルダー内の光源との間が構造的に離れざるをえず、光量が舌圧子の先端部に到達するまでに減衰するなどの問題がある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 口腔内を視診する際や清拭する際には、照

明機能をもち、光量が減衰せず、奥歯や咽頭部も照明できる舌圧子を開発する必要がある。形態や操作が単純にできれば、片手でも操作可能となり、もう一方の手で清拭ができる。また、安価に製作でき、使用後の衛生管理も楽で、介護者でも使用でき便利である。

【0004】

【課題を解決するための手段】そこで、舌圧子本体に市販のペンライトなどの照明具を挿脱できるようにすれば、ホルダーの作成は不要で、照明と舌圧子の機能をもつことが出来る。形態も単純となって、製作費が安価ですむ。機器や衛生管理も簡単なので、片手でも使える。

【0005】

【発明の実施の形態】舌圧子の本体1はアクリルなど光透過性のある素材で作る。本体1の長さは口腔奥まで入れることができる長さとする。本体1は上面2と下面3の間の嵩高よりも、両側の側面4間の幅がより大きいものとする。本体1の幅は収斂部5付近から先端部6に向かって細幅の形状とする。側面4は半円状に外側に膨らんだ形とする。本体1には照明具7が挿脱自在な孔8を設ける。本体1の上面2は、収斂部5付近から傾斜面9を設けて下面3と接合し、孔8を閉じる。その前方に先端部6を設ける。照明具7は、電源と光源をすでに備えた、市販のペンライトなどを使う。収斂部5と側面4を除いた本体1の上面2と下面3に、凸部10を筋状に複数直交して突設する。本体1の後端に鏝11を設ける。

【0006】

【他の実施例】本体1の素材は、弾性を持たせてもよい。本体1の形状は長手方向に曲成、屈成したり、段差などを設けてもよい。本体1は断面上の形が円状、四角状、台形状などでもよい。両側または片側の側面4は内側にくぼんだ形でもよい。傾斜面9は円弧状に外側に膨らむか、内側にくぼんだ形状にしてもよい。孔8には、光源装置や電源装置などを分離して挿入してもよい。孔8の後端口は本体1の途中から設けてもよい。孔8は曲成、屈成したり、段状にしてもよい。孔8は本体前部に開口端を設けて貫通させ、その孔から光を導いてもよい。その開口端には透過性のある蓋やレンズを設けてもよい。本体は光透過性でなく

てもよい、または一部が透過性でもよい。先端部 6 の形は断端状、ドーム状、尖頭状、螺旋状、平面半円状、平面三角状などでもよい。傾斜面 5 は設けなくてもよい。凸部 10 は、凹部などでもよい。これらの凸凹は、収斂部 5 や側面 4 に設けてもよい、または設けなくてもよい。

【0007】

【使用方法】 使用方法是、図 1 のように、照明具 7 を孔 8 に挿入する。照明具 7 の電源を入れる。歯間に挿入する際には、先端部 6 から挿入する。先端部 6 や収斂部 5 などより照明具 7 の光を透過させて、口内を照明する。咽頭部や奥舌部を照明するときは、本体 1 をさらに深く挿入し先端部 6 で舌を押さえる。凸部 10 は噛んできた時の滑り止めとする。奥歯や歯茎の外側面などを照明する時は、頬や唇の内側に本体 1 を挿入し、それらを内側から外側に圧する。上下歯がない場合には、開口幅が狭くなる。その場合、舌圧子本体を 90 度回転させて両側の側面 4 を噛ませるようにすれば、開口幅が広がる。

【0008】

【発明の効果】 従来の照明機能をもった舌圧子は、ホルダーと舌押し板に分離され、それらを連結する構成であった。本舌圧子は本体の中に、照明具を挿入するもので従来のものとは発想を異にする。その結果、本舌圧子は従来のものよりもはるかに簡単な構造で、安価にできる。孔をやや大きくすれば、多くの市販のペンライトなどが挿脱できる。しかも光源が舌圧子の先端部近くにあるため、光量の減衰はほとんどなく、照射範囲も広い。本体を回転させれば開口幅も、広げられる。形態が簡単なので、衛生管理がしやすい、家族などの介護者も使える。熱に強い素材を使うことで滅菌消毒もでき、衛生管理もしやすい一方、使い捨ても可能である。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 は斜視図である。

【図 2】 は側面図である。

【図 3】 は上面図である。

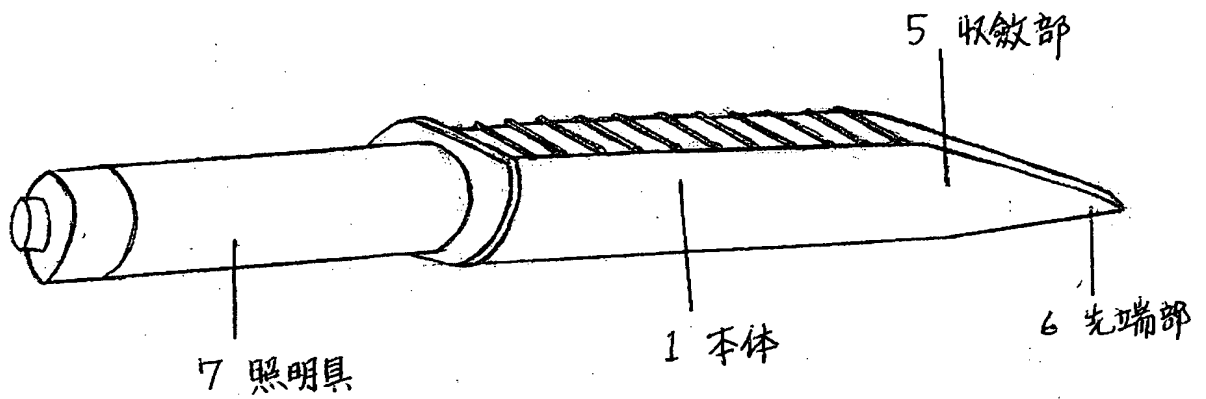
【符号の説明】

1 は本体。2 は上面。3 は下面。4 は側面。5 は収斂部。6 は先端部。7 は照明

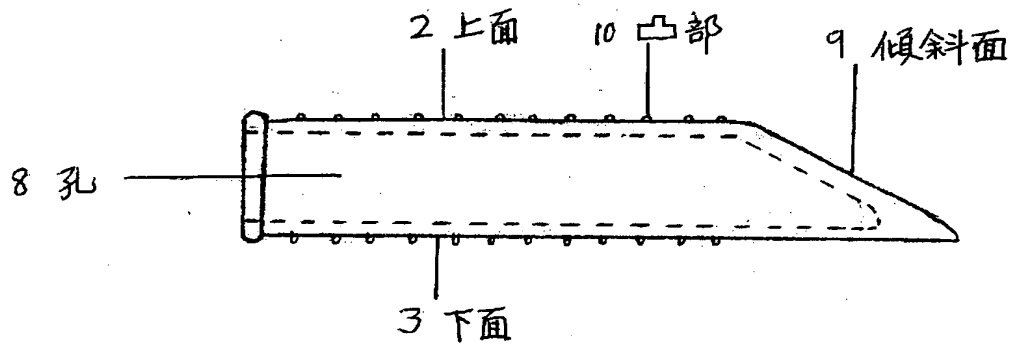
具。 8 は孔。 9 は傾斜面。 1 0 は凸部。 1 1 は鍔

【書類名】 図面

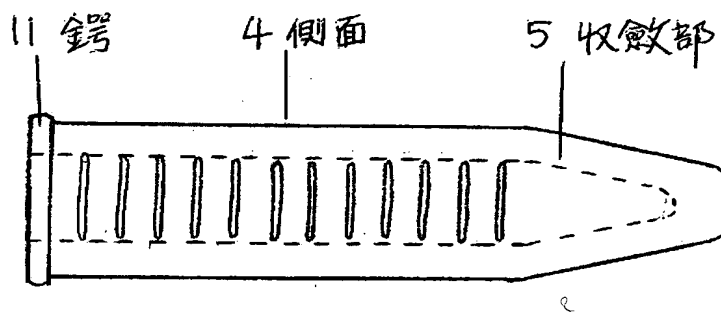
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 口腔内をより簡単、効果的に視診したり清拭するためには、照明の機能をもち、片手でも操作でき、光量が減衰せず、奥歯や咽頭部も照明できる舌圧子を開発する必要がある。形態や操作が単純にできれば、安価に製作できる。

【解決手段】 そこで、舌圧子本体に孔を設け、市販のペンライトなどの照明具を挿脱できるようにすれば、舌圧子、照明という2つの機能をもつことができる。形態も単純で、製作費が安価ですむ。衛生管理も簡単である。片手で操作できるので、もう一方の手で口腔清拭ができる。

【選択図】 図1

特願 2003-137970

出願人履歴情報

識別番号

[392001690]

1. 変更年月日

1991年12月25日

[変更理由]

新規登録

住所

千葉県市原市辰巳台東2丁目9番地 辰巳台東県営住宅3棟4
06号室

氏名

安田 清